

令和7年度 ワークセンター夢の樹就労定着支援 事業報告書

1 総括

令和7年度もこれまで通り本人及び企業双方の支援を重視する方針で活動を行った。利用者19名（年度当初14名、年度途中の利用開始5名、期間満了者5名）全員が雇用を継続することができたが、3名の利用者が仕事に対する不安感等で休職した。休職した3名の内2名は一体的に運営している就労移行支援事業所に通所し、生活リズムの維持や体力の回復等に努め、もう1名は定期的に来所面談を行った。3名の内2名は年度内に復職し、もう1名も令和8年度に復職予定である。休職した3名は一体的に運営している就労移行支援事業所からの就職者であり、利用者と相互理解の深まっている職員が継続的に支援できることは当事業所の強みだと感じる。また、5名が利用期間満了となり就労支援センターへ支援の引継ぎを行った。引継ぎはスムーズに行え、5名全員が就労を継続中である。今年度は定着実績に基づく報酬ランクが1ランク上がったことや安定して利用者を確保できたことで経営状態は安定していたが、利用者2名に給付費の1割負担が生じ、内1名は自主的に利用回数を減少させた。1名はこれまでと変わらず利用を継続したが、給付費の1割負担の影響による自主的な利用回数の減少や利用終了への効果的な対策は見つかっておらず、令和8年度も企業や関係機関と連携し、支援の必要性などを利用者に丁寧に説明する必要があると考えている。

2 事業概要

- 1) 施設名 ワークセンター夢の樹
- 2) 事業種別 就労定着支援
- 3) 所在地 東京都小平市大沼町2-1-3
- 4) 経営主体 社会福祉法人未来
- 5) 利用定員 なし
- 6) 利用現員 15名
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 平成30年 5月 1日
- 9) 職員 管理者 1名
 サービス管理責任者 2名（兼務：常勤換算1.2）
 定着支援員 1名（常勤換算0.3）

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現。
 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築。
 安心と希望のもてる生活。

- 4 基本方針 相談を通じて就労や生活面の課題を把握するとともに、企業や関係機関との連絡調整やそれに伴う課題解決に向けて必要となる支援を実施する。

5 実施事業（活動内容）

1) 定着支援の流れと支援機関の役割分担

- | 就職後の期間 | 支援機関 |
|-------------|-------------------------------------|
| ・就職後6か月未満 | ・・・直前利用の障害福祉サービス事業所（就労移行支援・就労継続支援等） |
| ・就職後6か月以上 | ・・・定着支援事業所－利用期間3年 |
| ・就職後3年6か月以上 | ・・・就労生活支援センター、就業・生活支援センター等 |

2) 定着支援の内容

(1) 本人支援

- ①職場定着支援計画（個別支援計画）の作成及び評価と見直し。
- ②電話での相談対応。（随時）
- ③就職者本人と原則月1回以上の面談。ただし本人の状況に合わせて実施する。

- ④原則月 1 回の職場訪問。ただし、本人及び企業の状況に合わせて実施する。
- ⑤本人了解の基、家庭、関係機関等との情報共有及び支援の連携。
- ⑥体調や雇用継続に対する不安感の軽減。

(2) 企業支援

- ①定着支援事業所の業務内容の説明。
- ②雇用継続のための相談対応や助言、関係機関の利用。
- ③障害者雇用に関する情報提供。

6 重点課題・目標

1) 活動

(1) 定着支援の充実

①本人支援・・・利用者個々に応じた定着支援

安定した勤務を継続し、社会人として自立できるよう支援する。本人とはできる限り月 1 回以上面談を行い、困り事や不安感、体調などを確認し必要なアドバイスをを行う。

②企業支援

企業の要望や悩みを丁寧に聞き取り、解消するためのアドバイスや対策を行う。また、利用者の特性や配慮事項、適している業務内容などを伝え、利用者が働きやすい環境作りや雇用継続につなげる。

③周囲の状況に応じた定着支援

ア、本人と企業双方の支援にオンラインを活用する。

イ、新型コロナウイルス等の感染症や体調不良などの影響で自宅待機や休職となった利用者の就労移行支援での受け入れに取り組む。通所することで体力低下を防ぎ、生活リズムを維持するとともに、面談等で精神的な安定を図る。

④就労支援センター等関係機関への引継ぎ

利用期間満了や利用を終了する利用者の支援を就労支援センター等関係機関へ引継ぎを行う。利用者与企业には、当事業での支援が終了しても就労支援センター等関係機関による支援が継続することを説明する。

【成果と課題】

①②③

19名の利用者（年度当初からの利用14名、年度途中からの利用5名）に対して、概ね月1回以上の面談または企業訪問を行い、利用者、企業双方の状況や意向の確認を行った。19名全員が雇用を継続したが、内3名が人間関係、持病の悪化、仕事に対する不安感などの理由で休職した。休職者3名には一体的に運営している就労移行支援事業所の利用や面談等の支援を実施し、11月と3月の年度内に2名が復職となった。他1名は支援継続中である。就労継続者16名中2名に勤務態度等に課題がある旨雇用先から相談を受けており、訪問や面談により助言、指導を行っているが、改善が不十分な状況となっている。

- ④5名の利用者が利用期間満了となり就労支援センターに支援の引継ぎを行った。期間満了前に就労支援センター職員が同行して職場訪問を行うなど、本人、企業、就労支援センターの関係構築を進めたことで、5名とも円滑に引継ぐことができた。5名の内4名は引継ぎ後も概ね安定して勤務を継続している。1名は3月末で引継ぎを行ったため、引継ぎ後の様子は今後確認する予定である。

(2) 業務の効率化

- ①企業訪問のスケジュールの効率化。
- ②スケジュールアプリの活用による情報共有の強化。

【成果と課題】

利用者が複数在籍している企業では訪問時に全員と面談することや、場所の近い企業を同日に訪問するなど、スケジュールの工夫を行った。また、令和2年度から導入したスケジュールアプリにより、職員同士お互いのスケジュールを外出先で把握することで効率的な訪問が行え、延べ193回の訪問が実施できた。

- 2) 人材育成
 - (1) リーダー層の育成
 - (2) 業務標準化

【成果と課題】

- (1) 昨年度訓練等給付費の請求業務及び経理の学習会を行った職員1名が請求業務の実務を行った。また経理については会計ソフトの入力業務を行い、習得が進んでいる。
- (2) ミーティング等での支援方法についての意見交換や支援内容の共有は根付いており、概ね統一した方針で支援にあたれている。事務面についてもミーティングなどで業務内容や手順について共有するとともにOJTを実施しており、業務習得が進んだ。

3) 経営管理

(1) 訓練等給付費収入の安定

新規利用者の確保年間目標人数4名

※令和7年1月末現在14名（年間黒字収支には10名の利用者が必要）

- ①近隣の関係機関リストをもとに、ワークセンター夢の樹就労移行支援と連携し、近隣の特別支援学校、就労支援センターなどへ利用者募集を行う。訪問を基本とするが、状況に応じて電話やメール、オンライン面談を活用し、関係性の継続と強化を図る。過去の紹介実績を基に、効果の高い関係機関に重点を置くと共に新規の関係機関の開拓を行う。
- ②給付費の1割負担の影響による自主的な利用終了に対し、利用者には定着支援事業の必要性や、就労支援センターと比べて支援の頻度が高いことなどを丁寧に説明するとともに、企業には1割負担分を何らかの手当で本人に支給する方法などを提案する。

【成果と課題】

令和7年度の新規利用者は5名で、全員ワークセンター夢の樹の就労移行支援の元利用者であった。また、5名が利用期間満了で利用終了となった。3月末の月平均利用者数は15.4名となり昨年度を1.7名上回った。(令和6年度実績13.7人)。利用実績が増加し、報酬ランクが1ランク上がったため、給付費収入が増加し838万円となり昨年度の668万円と比較し170万円の増額となった。なお、現在も含めこれ迄の利用者は当法人の就労継続支援A型事業所のみくま出身の1名を除き、全員ワークセンター夢の樹の就労移行支援の元利用者となっている。

- ① 今年度は新規の関係機関2件に訪問し、情報交換を行った。また、近隣市の就労支援センター等8件、特別支援学校5件に訪問や電話連絡等で利用者紹介の依頼を行った。利用希望者の紹介には結びつかなかったが、支援の引き継ぎについて情報交換を行うことができた。
- ② 2名の利用者に給付費の1割負担が生じた。2名ともに利用は継続となったが1名は利用回数が1か月に1回から3か月に1回に減少した。もう1名はこれまで通りの利用を継続している。19名の利用者の内、1割負担が原因で利用回数を制限している利用者はこの1名のみだが、事業開始後8年間で1割負担が原因で利用を終了した利用者は3名、利用回数を制限した利用者は3名となった。令和8年度も給付費の1割負担が生じる可能性がある利用者が3名おり、利用の減少や終了の可能性がある。経済的な理由で支援が制限されることは課題と考えているが、有効な対応策がない状況である。

(2) 月次試算を正確に行い、計画的に予算を執行する。

【成果と課題】

月次試算の分析を丁寧に行い、計画的に予算を執行できた。

7 事故等報告

- 1) なし。

8 開所状況

- 1) 開所期間 自 令和7年4月1日 至 令和8年3月31日
- 2) 開所日数
 - (1) 週開所日数 5日間
 - (2) 開所時間 午前9時～午後5時
 - (3) 年間延開所日数 242日間

9 利用状況

1) 利用者延人員 185人

10 利用者状況（令和8年3月31日現在）

1) 年齢

18歳以上20歳未満	0名
20歳以上30歳未満	3名
30歳以上40歳未満	8名
40歳以上50歳未満	4名
50歳以上60歳未満	0名

2) 障害の状況

愛の手帳3度	0名
愛の手帳4度	9名
精神障害者保健福祉手帳2級	4名（1名は愛の手帳4度と重複）
精神障害者保健福祉手帳3級	3名
身体障害者手帳	1名（1名は愛の手帳4度と重複）

3) 居住状況

管内居住 10名 管外居住 5名

4) 性別

男性 9名 女性 6名